

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193300124		
法人名	株式会社あしたば		
事業所名	グループホーム明日葉		
所在地	埼玉県東松山市高坂1091-1		
自己評価作成日	令和3年2月5日	評価結果市町村受理日	令和3年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの生活を第一とし、集団ではなく、日常の生活や外出・通院など個別のケアを行っています。また庭を広くとってウッドデッキを設置しいつでも外気を感じることが出来るようになっていきます。敷地内には、桜の木が何本かあるため、春には、桜祭りを行ったり桜を見ながらおやつを食べたりと季節を感じていただいております。認知症介護実践者研修終了者も配置し、より認知症に特化した専門的なケアを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・信頼関係を築いていくことを大切にされ、言葉かけや対話に力が入れられており、コロナ禍であっても事業所の対応には家族から高評価をうけている。また利用者それぞれの個性を尊重され、利用者の生活の中に笑顔や安らぎがあることを大切にされることで、利用者の潤いのある暮らしに活かされている。
 ・運営推進会議については、感染予防のため、開催はできない状況だが、代替として地域や家族、地域包括支援センター等に文書で利用者の様子や活動の報告、運営状況等が伝えられている。
 ・目標達成計画は、チームでつくる介護計画とモニタリングについての課題を設定され、継続的なモニタリングが出来ていること、ケア目標に関してチームとしての関りが行われていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議で『自らがケアに携わる上で大切にしていること』を挙げてもらい、それを集約して理念としている。また、常に忘れず実践に繋げるために、毎朝唱和を行っている。	具体的な行動目標として理念を掲げているため、職員ひとり一人の行動指針にもなっている。特に言葉遣いや笑顔で接することの大切さを共有し実践することでの取り組みが継続されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、行われなかった。	地域の方との交流を深め、事業所を知ってもらうための、努力を続けていた結果として、コロナ禍であっても近隣の方から野菜をいただいたり、芝生を刈ってくれるなどの支援や交流は継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、行われなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、運営推進会議は行われなかったが、状況や取り組みなどは、家族に郵送していた。	運営推進会議については、コロナ禍での臨時的取扱いとして、開催できないことの代替として地域や家族、地域包括支援センター等に文書で利用者の様子や活動の報告などを伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空床情報や入居問い合わせ、医療についてなどその都度担当者とは、連絡を取り合っている。	市の担当者とは日常的に相談や連絡が密に取られている。コロナ禍においては感染予防や発熱者の取り扱い等を相談し助言をいただくなど、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三か月に一回研修を行い、全スタッフが正しく理解できるよう、実践している。また、毎月のミーティングの際にも話の場をもうけている。	身体拘束をしないことを前提に、ケアの方針が話し合われ、カンファレンスを通して個別の検討が行われている。研修のなかで、身体拘束につながる恐れのある事例を話し合い、身体拘束をしないための工夫や考え方を共有し理解を深める努力をされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がる行為とは何かをミーティングの際話し合ったり、研修を行い未然に防止できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用しての支援体制は構築出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時に説明を行い、その場で疑問点を解消できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている。又、毎月の請求書と一緒に意見の書き込めるハガキを同封し直接本部へ届くようにし家族の思いを確認している。	感染予防のため面会制限があるなかでも、家族との連絡を密にとり、利用者との会話の時間も意識的に持つなど、相談しやすい環境づくりに力が入れている。電話対応が主になるため、指導の強化や連絡カードを作成することで統一した対応ができるように徹底している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングでその機会を設けている。又、随時意見を吸い上げ反映することできるよう、ユニットリーダーを配置している。	月に1度のミーティングの際には、毎月のテーマを決めて職員からの意見を募ってから話し合うほか、職員の様子を見て適宜、管理者から声をかけて意見が聴き取られており、職員からの提案が反映されやすい環境がつけられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	決算賞与などの際に人事評価シートを記入してもらい、本人の努力や実績、勤務態度などをきちんと反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や苦手分野など個人的に指導やアドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、行われなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査で、現状困っている事を把握し、安心してご利用いただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査で、現状困っている事を把握し、安心してご利用いただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査で、現状困っている事を把握し、安心してご利用いただけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を把握し、それを取り入れた支援を行っている。又、その方の能力に合わせて出来ることを一緒に行い、ともに生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が快適に生活できるように、ご家族に協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、面会制限や家族の行事への参加がなかったが、電話での交流や母の日、父の日などには、手紙をお願いし関係性の維持に努めた。	普段の様子を細かくお知らせすること、利用者の言葉を伝えることに配慮され、毎月のおたよりや写真を送付することを継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人個人の性格や相性などの関係性を考慮し、共に支え合えることのできるよう、食事の席や外出時のメンバーを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話連絡などを行い、フォローアップに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人を中心に考えて希望や意向に添えるよう努めている。	利用者ごとの想いを把握できるように質問の方法を工夫したり、言葉に表せないことも表情から読み取る努力がなされている。また職員間で情報を共有することで、好むことや嫌なこと、いつもと違う様子を察する工夫がされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査やサマリーなどを通し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録やスタッフ間の申し送りを通して、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで具体的な課題とそれを解決する為のケア内容を話し合い、基本対応表に反映している。	面会制限が続いているため、会えていないことで、実際の利用者像とのギャップが家族に生じないように情報を共有することに努力され、利用者の個別の希望や自己実現に向けた介護計画となるように配慮されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要に応じて、個別の記録用紙を用意し、職員間で共有し解決に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居中でも様々なサービスが利用できないか問い合わせや検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は実施することが出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関と信頼関係を築き、通院時以外でも、電話連絡で相談や指示をもらえる体制を整えている。	希望するかかりつけ医を選択できるように情報提供がされている。受診時には普段の状態を適切に伝えられるように支援され、家族との情報共有にも努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護時に日々の医療的な疑問点やご本人の状態を伝え、適切なアドバイスや受診などの支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	具体的な退院日の日程調整をしたり、お見舞い時に状態の把握ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、その時点での家族の意向を聞きホームで行える対応を説明している。重度化が予想される入居者さんには、ご家族と話し合いの機会を設け希望をお伺いし、方針を決めている。	家族やかかりつけ医、訪問看護とも協力体制を確保し、状況に応じて細かな話し合いを重ねることで看取りの実施に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等が可能なように、消防署開催の初級救命救急講習を、スタッフが受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練に参加し避難方法などを身につけている。	感染予防のため住民参加型の訓練はできないことから、職員の役割を確認し迅速な行動ができるように訓練が計画されている。備蓄の在庫管理や入れ替えも実施され、保管場所を分散するなど工夫がなされている。	コロナ禍での災害は特に予測不可能なことと職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、定期的な避難訓練の実施とともに状況にあわせた工夫を継続して検討していくことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴を把握し、その人に合った声掛けを行っている。	言葉かけや対応に関しては日頃からの注意が必要なことから、気になることは注意しあえる関係づくりがされている。経験年数に関係なく、意識を高くもつことができおり、配慮しあえる雰囲気がつくられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ側で決めつけてしまうのではなく、ご本人が最終決定できるような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを崩すことのないよう、無理強いしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から整髪・整容を意識して行っている。また、衣服に関しても、本人に聞いたりその方に合ったコーディネート心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に合わせてテーブルやお盆拭き、食器洗いなどお願いしている。	家庭的で栄養バランスに気を配った食事が工夫され、温かいものは温かく提供されるように配慮されている。調理の音や匂い、季節感のある食材に触れることで食卓を囲む楽しい雰囲気が感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士(代表者)の献立で、摂取量や水分量はその都度記録することで支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず洗面所や食事席などその方の状態で作れる場所で口腔ケアにあたっている。また、月1回の歯科往診を利用し、口腔衛生と清潔保持につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間やパターンの把握に努め、快適に排泄していただけるようケアにあたったいる。また、おむつやリハビリパンツなど、ご本人の現状に沿っているかを定期的に見直している。	カンファレンスで個々の介護方法が話し合われて実践されている。一人ひとりに応じたケアを提供することにより、一時的なおむつ利用で済んだケースもあり、効果をあげられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、食物繊維を多く含む食物の提供、内服薬の副作用の理解に努め、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決めているが、その中で好きな時間やタイミングで入浴していただけるように努めている。	利用者の個別性が把握され、心地良く入浴してもらえるように働きかけが支援されている。入浴を拒否する理由や背景を考え、2人介助での対応や声かけの配慮など、対応を工夫することで不安を取り除けるようにされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調・気候を見極め室温調整を行っている。また室内の明るさなども個々の希望に合わせて安心して休息・就寝が出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から発行される薬内容シートを記録に綴じ、副作用や効能について理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の能力や興味に合わせた作業やレクリエーションなどを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、あまり外出は出来ませんでした。	感染防止に配慮しながら、人混みを避け、ドライブや散歩の機会を工夫したり、庭にでて外気浴を楽しむなどの働きかけをされている。	コロナ禍であっても、戸外へ出かけられるように支援の体制を整えるとともに、感染予防の知識や配慮を学ぶための取り組みや工夫を検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持することで精神的満足感を味わっていたり、ためへの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から手紙をお願いされたり電話をかけたいとの希望があった際は、対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にネームプレートを貼ったり室温をこまめに調整して快適に過ごしていただけるよう努めている。又、壁面など装飾を行い季節を感じて頂いている。	利用者が気持ちよく過ごせるように掃除や整理整頓に気が配られており、清潔な共用空間づくりがされている。家具の配置や装飾にも家庭の雰囲気を崩さないように、居心地の良さに気を配られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下に数人掛けや一人掛のソファなどを置き、思い思いに過ごして頂ける空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のない範囲で、馴染みの物を持ってきていただき、ご本人のお部屋に近づける努力をしている。	生活習慣やこだわりに配慮した居室となるように利用者や家族と相談し、使い慣れた家具や家族写真などが持ち込まれている。大切なものや思い出の品を持ち込むことで安心できる居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることやわかることを最大限活かせるように、掲示などを行っている。		

目標達成計画

作成日: 令和 3 年 3 月 17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	コロナの影響もあったが、外出支援がほとんどできなかった。	○日常的な散歩を行う。 ○人混みを避けた場所への外出	○以前行っていた近所の散歩を定着させる。 ○行事などで人混みのない場所をさがし外出支援を行う。	12ヶ月
2	35	災害時における対応方法をすべての職員が把握できていない。	定期的な避難訓練を行いながら、日頃からシュミレーションを行える体制をつくる。	○今まで通りの年2回の避難訓練 ○ミーティングの際定期的にシュミレーションしたり、連絡方法などのフローチャートを周知する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。